第２次和歌山市立博物館基本計画
（案）

令和７年　和歌山市

目　次

第1章　基本計画策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
1　博物館設置の目的
2　計画改定の目標・意義
3　計画期間
4　上位計画
（1）上位計画
（2）和歌山市立博物館基本的運営方針から和歌山市立博物館基本計画へ
5　計画策定の背景

第2章　入館者とアンケート　・・　5
（1）入館者の現状
（2）市民アンケート結果概要
（3）館内アンケート結果概要

第3章　評価指標の達成状況・・・　22
（1）資料調査件数
（2）常設展展示替え回数
（3）特別展満足度
（4）展覧会イベント数
（5）館外事業参加者
（6）マスコミへの情報提供件数
（7）ホームページアクセス数
（8）博物館認知度

第4章　抽出した課題・・　28

第5章　基本理念と基本方針・・　30
1　基本理念
2　基本方針

第6章　取組・・　31
基本方針 1 「歴史・文化の拠点」としての博物館
基本方針 2　親しまれ、訪れやすい博物館
基本方針 3　人を育てる博物館
基本方針 4　観光やまちづくりと連携した博物館
計画体系

第7章　計画を進めるにあたって・・　36
1　運営について
2　利用者数目標について
3　進捗評価について
（1）目的
（2）評価指標

第１章　基本計画策定にあたって

１　博物館設置の目的

和歌山市立博物館設置の目的については、昭和 60 年７月 18 日制定の「和歌山市立博物館条例」第１条において、「郷土の歴史、文化遺産等に関する市民の理解と認識を深めるとともに、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を設置する」としています。

２ 計画改定の目標・意義

上記博物館設置の目的に照らし、令和２年１１月に「和歌山市立博物館基本計画」を策定し、博物館の現状と課題、市民ニーズを把握した上で、市民により親しまれ、多くの方に訪れてもらえる博物館を目指してきました。令和６年は計画の最終年度にあたるため、基本計画の進捗状況を総括し、現状と課題を再抽出するとともに、今後の展示の質的発展、調査・保存の改善、利用者拡大の多様な取組、施設のリニューアルや管理運営方法の改善等について今後の方向性を示すため、「第２次和歌山市立博物館基本計画」を策定します。

３ 計画期間

計画期間は、令和 7 年度から令和１１年度にかけての５年間とします。なお、毎年、自己点検等により達成度を確認していきます。

４ 上位計画

（１）上位計画

本基本計画は「博物館法」、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」、「和歌山市立博物館条例」に基づき、「第５次和歌山市長期総合計画」及び「第３次和歌山市教育振興基本計画」の下位計画として策定します。

「第５次和歌山市長期総合計画」（平成 29 年 3 月策定）

「第５次和歌山市長期総合計画」の「（分野別目標 2）住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」の「（政策 2-5）郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進」において、「（施策 2-5-3）文化財の保護・活用」について、次のとおり位置づけられています。

■「(施策 2-5-3)文化財の保護･活用」

「博物館や国指定重要文化財である旧中筋家住宅等において地域の文化財をはじめとする歴史・文化に触れる機会の充実を図るとともに、文化財を生かした様々な事業の展開により本市の魅力発信に努め、郷土愛の醸成や来訪者の増加につなげます。」

「第 3 次和歌山市教育振興基本計画（令和 6 年度～令和 10 年度）」（令和 6 年 3 月策定）

「第 3 次和歌山市教育振興基本計画」「（基本目標 10）文化財の保護・活用」の「（施策 10-2）文化財の活用」「（取組 10-2-①）文化遺産の有効な活用」における「現状と課題」と「重点的に実施する取組」では次のとおり位置づけられています。

■「現状と課題」

「郷土の歴史に関する資料を調査・収集・保管・研究・展示する博物館では、展観事業、講座、体験学習などを実施し、和歌山の歴史の情報発信に努めています。特に冬季企画展では、小学校の社会科の授業に対応した「教育プログラム」を用意し、市内外の多くの小学校が参加しています。」。課題としては、「博物館をはじめとする文化財施設への入場者数が少ない傾向にあること」が挙げられます。

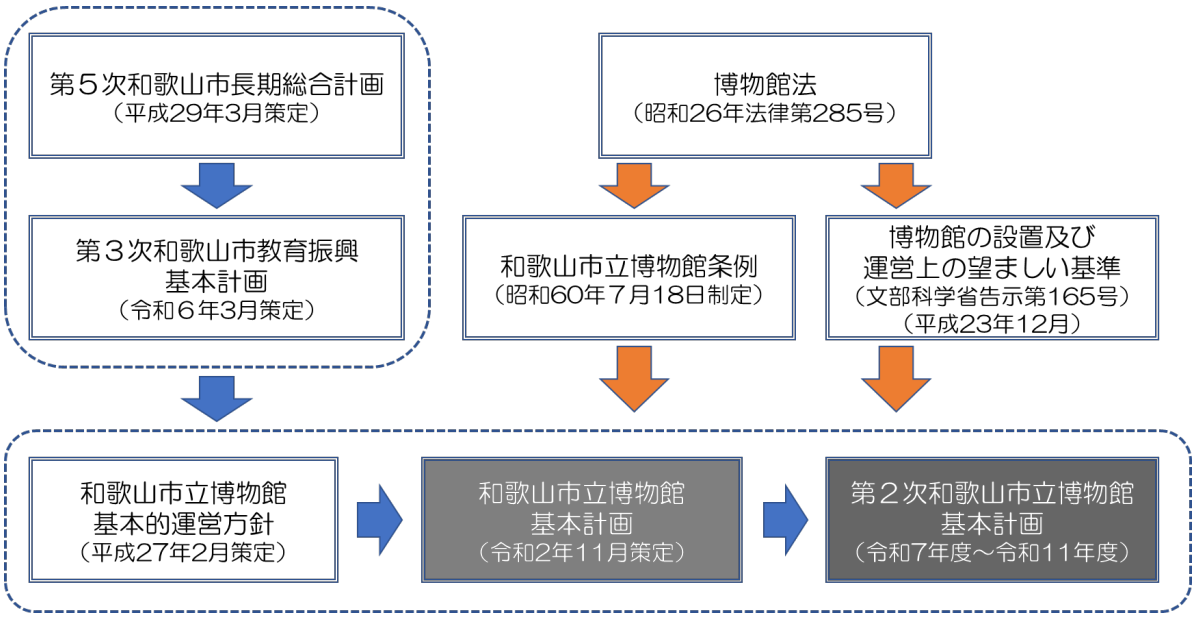
■「重点的に実施する取組」

「博物館や旧中筋家住宅等において、地域の文化財をはじめとする歴史や文化に触れる機会の充実を図るとともに、博物館においては施設等のリニューアルも視野に入れながら、集客を意識した様々な事業を積極的に展開することにより、本市の魅力発信に努め、郷土愛の醸成や来訪者の増加につなげます。」

（２）和歌山市立博物館基本的運営方針から和歌山市立博物館基本計画へ

平成 23 年 12 月、「博物館法」第 8 条に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第 165 号）が告示されました。この中では「基本的運営方針」を策定し、公表するよう努めるものとする、と定められています。これを受けて、よりよい博物館づくりを目指すべく、博物館の諸活動の目的を明確にするために、平成 27 年度より 5 ヵ年の期間を定め、博物館活動の新たな指針として「和歌山市立博物館基本的運営方針」を定めました。その後、令和 2 年度から、この基本的運営方針を「和歌山市立博物館基本計画」として更新し、取組分野ごとに定めた目標指標を年度ごとに点検しながら、活動方針の達成を目指してきました。令和６年度までの達成の程度、成果、問題点を確認し、これらの評価を第２次基本計画に活かしていきます。

【計画の位置づけ】



５　計画策定の背景

和歌山市立博物館は、開館以来、市民図書館、市民会館と隣接し、一つの文化ゾーンを形成していました。しかし、そのような文化ゾーンとしての博物館周辺の環境は、令和 ２ 年 ６ 月に、南海電鉄和歌山市駅に新市民図書館がグランドオープンし、令和 ３ 年には伏虎中学校跡地に和歌山城ホールがオープンするなど、大幅に変化しています。令和 ４ 年には和歌山市駅前原動機付自転車駐輪場跡地に有吉佐和子記念館がオープン、さらに、旧市民会館跡地には、ホテルやテナントビルなどの建設が計画されており、市堀川の水辺空間を利用した都市再生整備なども計画されています。それら周辺環境の変化の中で、歴史・文化遺産の情報を豊富に有する博物館の特性を活かし、再活性化に資するための対応が求められています。

また、平成 30 年 ４ 月、組織改正により、博物館は教育委員会から市長部局（産業交流局）へ移管となりました。さらに令和 ２ 年 ４ 月から博物館法の改正（令和元年 ６ 月 ７ 日施行）に伴い、補助執行であった教育委員会所管の博物館の事務も、市長部局（産業交流局）で管理・執行することとなりました。令和元年 ７ 月には和歌山市文化芸術基本条例が施行されたことを受け、博物館においても観光やまちづくりといった他分野における施策との連携を図ることが求められています。

このような動きの中で、博物館には、その設置目的にしたがい、緻密な計画、自己点検を行いつつ、これまで以上にまちづくりや観光など他分野との連携が必要となり、周辺環境や状況の変化を受けとめ、今後の博物館の方向性を定めていくことが求められます。

【博物館に関する主な経緯】

年　度	概　要
昭和 44 年度 (1969)	2 月、「和歌山市長期総合計画案」において、総合博物館建設の検討が盛り込まれる。
昭和 45 年度 (1970)	和歌山市史編纂事業開始。
昭和 51 年度 (1976)	9 月、博物館建設に向けて、和歌山市教育委員会社会教育課文化財係による資料収集開始。
昭和 54 年度 (1979)	12 月、和歌山市郷土資料館展示資料総合基礎調査開始。
昭和 59 年度 (1984)	4 月、和歌山市立郷土資料館開設準備室設置。
昭和 60 年度 (1985)	11 月、和歌山市立博物館開館。 2 月、「博物館法」第 10 条による登録博物館となる。
平成 4 年度 (1992)	3 月、和歌山市史編纂事業が終了し、その事務の一部は平成 5 年度（1993）から和歌山市立博物館へ移管。
平成 23 年度 (2011)	12 月、「博物館法」第８条に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第 165 号）が告示。
平成 25 年度 (2013)	3 月、（包括外部監査）基本的運営方針策定による博物館運営への指摘。
平成 26 年度 (2014)	2 月、議会において「和歌山市立博物館基本計画」策定について指摘を受ける。 2 月、（教育委員会）「和歌山市立博物館基本的運営方針」策定（5 カ年計画で実施）。
平成 30 年度 (2018)	4 月、和歌山市の組織改正により博物館が教育委員会から市長部局（産業交流局）へ移管。 9 月、議会へ「和歌山市立博物館基本計画」を策定することを報告。 3 月、（包括外部監査）入館者増加策、指定管理者制度の検討について指摘。
令和 2 年度 (2020)	4 月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「博物館法」の一部改正に伴い、補助執行であった教育委員会所管の博物館の事務を市長部局（産業交流局）で管理・執行。
	10 月、和歌山市文化芸術推進基本計画策定。計画の中で、「施設および展示の充実と利用率の向上を図っていく」「文化資源について和歌山市立博物館を中心として継続的に調査・保存・研究に努める」と役割が明記されている。
	11 月、和歌山市立博物館基本計画策定。
令和 4 年度 (2022)	4 月、博物館法改正（令和 5 年 4 月 1 日施行）。博物館の役割が、従来の社会教育法の精神のみならず、文化芸術基本法の精神にも基づくことが定められた。
令和 6 年度 (2024)	7 月、改正博物館法に基づく登録博物館となる。

第２章　入館者とアンケート

管理運営するなかでの入館者の現状と「市民アンケート」「来館者アンケート」の調査結果をもとに現状を整理しています。

（１）入館者の現状

令和元 年度の年間総入館者数は 17,397 人でしたが、令和２年以降コロナ禍の影響により、激減しています。令和５年度から徐々に回復傾向にあり、令和６年度には 11,210 人となっています。また、出張展示を合わせた利用者数は、令和６年度で 12,002 人となっています。

展示内容別に入館者数をみると、令和 2 年度以降で、常設展で年平均 2,042 人、特別展・企画展合計で年平均 7,727 人の入館者数でした。特別展・企画展開催時に多くの来館者が訪れましたが、展示内容により来館者の増減が見られます。

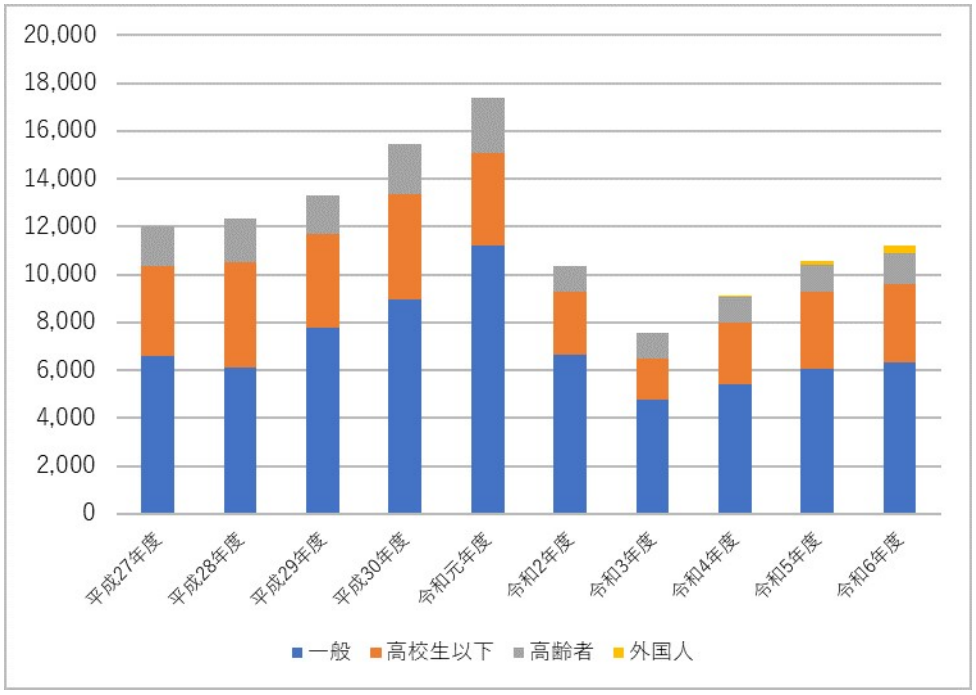
過去 10 年間の特別展・企画展では、縄文時代から現代にいたるまで、和歌山市に関係する幅広いテーマを扱い、さまざまな切り口で、和歌山市の歴史・文化を紹介してきました。なかでも、江戸時代の紀州徳川家や和歌山城・城下町、市内の神社・仏閣、中世の雑賀衆に対して興味・関心の高さがうかがわれます。また、冬季企画展の恒例となっている「歴史を語る道具たち」も、学校教育との連携によって、安定した入館者数を確保することができています。

常設展入場者数は、特別展・企画展と較べて少ないが、市民・来市者の文化的な関心は高く、体験学習の環境整備、展示テーマ・手法の革新などの工夫や、市外からの観光客・外国人観光客などの多様なニーズに対応することなど、気軽に訪れやすい環境整備が図られれば、入館者の増加が期待されます。また、周辺教育施設との連携をさらに強化することで、学校教育へのさらなる寄与と、博物館全体の利用者数増大が期待されます。

博物館の入館者状況

（人）

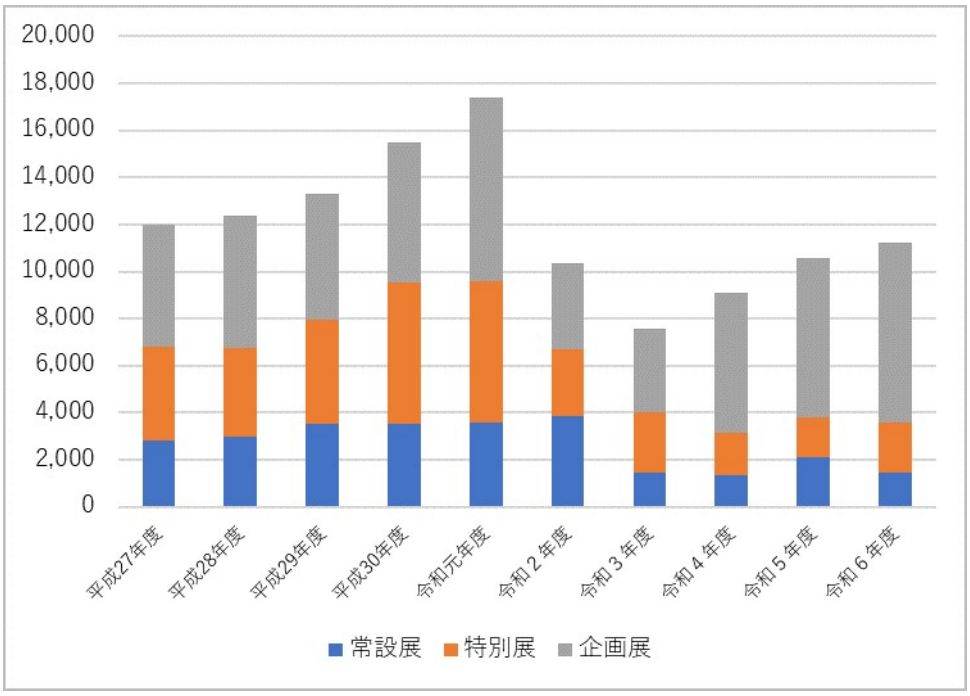
	一般	高校生以下	高齢者	外国人	総数
平成 27 年度	6,604	3,751	1,647		12,002
平成 28 年度	6,111	4,383	1,878		12,372
平成 29 年度	7,777	3,934	1,622		13,333
平成 30 年度	8,952	4,418	2,109		15,479
令和元年度	11,205	3,889	2,303		17,397
令和 2 年度	6,652	2,643	1,087		10,382
令和 3 年度	4,763	1,756	1,050		7,569
令和 4 年度	5,405	2,611	1,063	20	9,099
令和 5 年度	6,063	3,247	1,112	167	10,589
令和 6 年度	6,332	3,289	1,282	307	11,210



博物館の入館者数

（人）

	常設展	特別展	企画展	総数
平成 27 年度	2,806	4,010	5,186	12,002
平成 28 年度	3,004	3,734	5,634	12,372
平成 29 年度	3,525	4,407	5,401	13,333
平成 30 年度	3,520	6,014	5,945	15,479
令和元年度	3,589	6,006	7,802	17,397
令和 2 年度	3,857	2,864	3,661	10,382
令和 3 年度	1,446	2,588	3,535	7,569
令和 4 年度	1,341	1,817	5,941	9,099
令和 5 年度	2,132	1,654	6,803	10,589
令和 6 年度	1,436	2,154	7,620	11,210



博物館の特別展・企画展(平成 27 年度～令和 6 年度)

（人）

	常設のみ	春季企画展	夏季企画展	夏季特別展	秋季企画展	秋季特別展	冬季企画展	春季企画展
平成27年		古文書から探れ！		近代スポーツと国民体育大会		表千家と紀州徳川家	歴史を語る道具たち	
	2,806	1,525		1,223		2,787	3,661	
平成28年		徳川吉宗と紀州の明君		玉津島－衣通姫と三十六歌仙－		城下町和歌山の絵師たち	歴史を語る道具たち	
	3,004	2,062		1,336		2,398	3,572	
平成29年		紀州の風景－和歌の浦を中心に－		美尽し善極める－駿河屋の菓子木型－		幕末の紀州藩	歴史を語る道具たち	
	3,525	1,434		1,983		2,424	3,967	
平成30年		和歌浦には名所がござる		和歌山城再発見		お殿様の宝箱－南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術－	歴史を語る道具たち	
	3,520	1,513		2,420		3,594	4,432	
令和元年		写真にみる和歌山市の歩み	中畑艸人	雑賀衆と鷺ノ森遺跡-紀州の戦国-		徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝	歴史を語る道具たち	
	3,589	2,413	1,773	2,479		3,527	3,616	
令和2年		総持寺の至宝	ヘンリー杉本の世界			紀三井寺展	歴史を語る道具たち	
	3,857	中止	1,086			2,864	2,575	
令和3年		総持寺の至宝	アッ！と驚く意外な歴史			加太淡嶋神社展―女性・漁民の祈り―	歴史を語る道具たち	新収蔵品展
	1,446	1,022	1,218			2,588	977	318
令和4年		R3新収蔵品展	有吉佐和子と和歌山		発掘された江戸時代の暮らし	表千家とわかやま－紀州藩における交流－	歴史を語る道具たち	新収蔵品展
	1,341	559	1,654		815	1,817	2,661	252
令和5年		R4新収蔵品展／弥生・古墳時代のムラ―市内津秦・井辺・神前―	しはくどうぶつえん		ヘンリー杉本の描いた日系人収容所	葛城修験の世界	歴史を語る道具たち	花鳥風月―めぐる四季と花鳥―
	2,132	810／577	1,462		795	1,654	2,788	371
令和6年		花鳥風月－めぐる四季と花鳥－／和歌山城を掘る	陸奥宗光と和歌山－宗光を支えた紀州の賢人－		大きな絵	聖武天皇と紀伊国－旅するひと、もの－	歴史を語る道具たち	
	1,436	832／713	2,013		472	2,154	3,590	

周辺施設の入館者数動向

施　　設	入館者数	
和歌山県立博物館	令和 3 年度	33, 927 人
	令和 4 年度	24, 677 人
	令和 5 年度	29, 007 人
和歌山県立紀伊風土記の丘（資料館）	令和 3 年度	11, 280 人
	令和 4 年度	12, 238 人
	令和 5 年度	12, 489 人
和歌山県立近代美術館	令和 3 年度	53, 059 人
	令和 4 年度	55, 727 人
	令和 5 年度	49, 883 人
和歌山城（天守閣）	令和 3 年度	121, 428 人
	令和 4 年度	176, 897 人
	令和 5 年度	214, 141 人
わかやま歴史館	令和 3 年度	15, 726 人
	令和 4 年度	20, 846 人
	令和 5 年度	28, 879 人

入館者分析のまとめ

▶入館者数は、前回計画期間中にコロナ禍があったため、目標値を大幅に下回る結果となりました。資料のデータベース化を進めることで Web での閲覧を可能にするなど、来館者数に大きく影響するような事態に備えた対応が求められています。

▶特別展・企画展では、紀州藩や和歌山城に関する展示の人気が高く、引き続き和歌山市立博物館の独自性を活かした展示を進めていくことが重要です。また、「歴史を語る道具たち」など、学校教育との連携が成功したことにより、安定した入館者数を確保している展示もあり、さらなる連携強化が求められています。

▶和歌山市内の他の文化施設（和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘、和歌山県立近代美術館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館）については、共通割引のあるまちなかミュージアムの制度や企画等について連携した取組を一層推進していくことで、さらなる入館者数増が見込まれます。

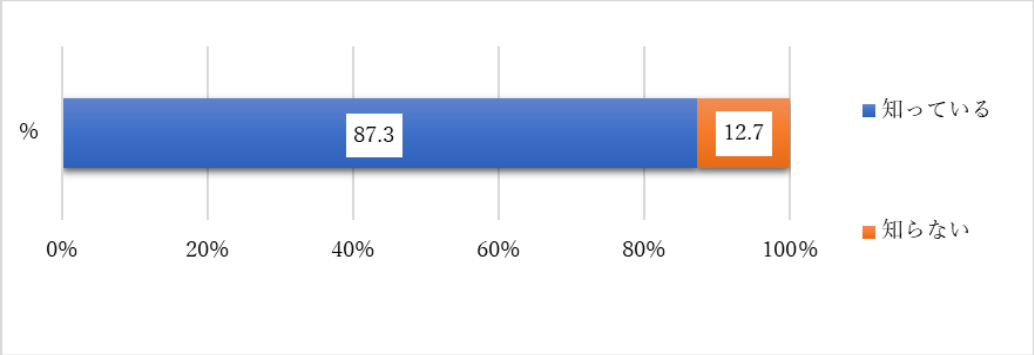
（２）市民アンケート結果概要

「インターネットモニター」や「学生向けアンケート」の調査結果をもとに、博物館の来館者像と、求められる博物館の役割についてみていきます。

市民アンケートの期間：令和６年５月１３日～６月３０日
回収方法：インターネットモニターとして登録されている市民から、LOGO フォームを通じて Web で回収
並行して、市内の大学生に二次元バーコードを配布し、Web で回収
回　答　数：978 人（インターネットモニター912 人、大学生 66 人）

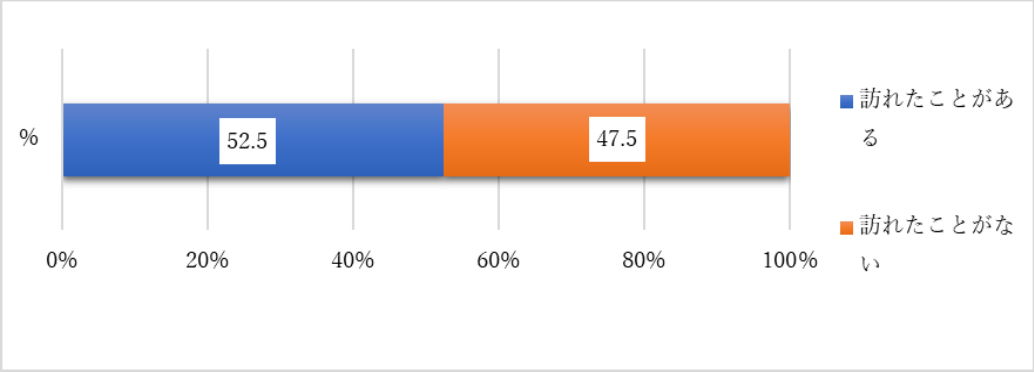
①博物館の認識度

87.3%の人が博物館の存在を知っていると回答があった一方で、12.7%の人が知らないと回答しています。前回調査時よりも知っている方の割合は 12.2%増加しています。



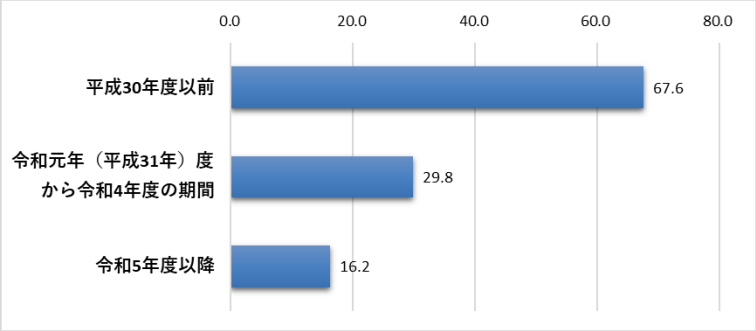
②来館の有無

来館したことが「ある」人は 52.5%で、来館者の割合は前回調査より 9.1%増加したものの、「知っている」と回答した人の約６割にとどまっています。



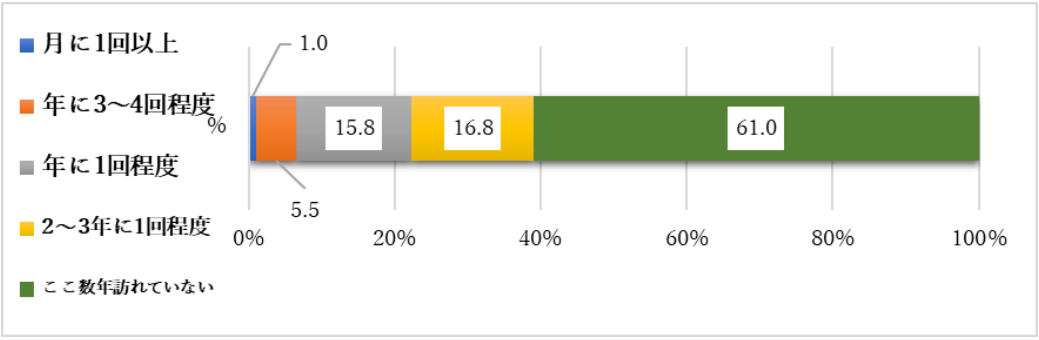
③来館した時期及び頻度

来館したことがある人の中でも、「平成 30 年度以前」に来たという人が 67.6％を占めており、「令和 5 年度以降」に訪れた人は 16.2%にとどまっています。



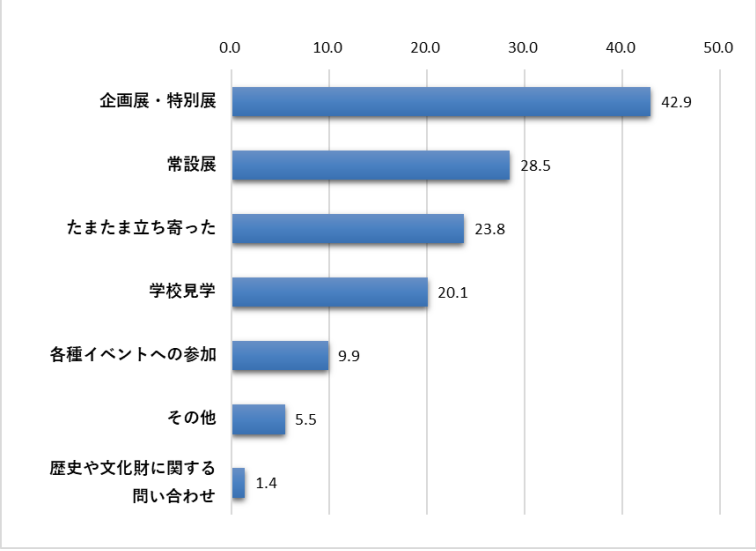
また、年に１回程度以上の頻度で来館される方が 22.3%いる一方で、ここ数年訪れていない方が 61.0%となっています。

前回調査に比べると、「ここ数年訪れていない」方の割合はわずかに減少していますが、何度も来館される方の割合は低いままとなっています。企画展やコーナー展示の展示替え時に、「また見に行ってみよう」と思ってもらえるような PR 活動が重要と思われます。



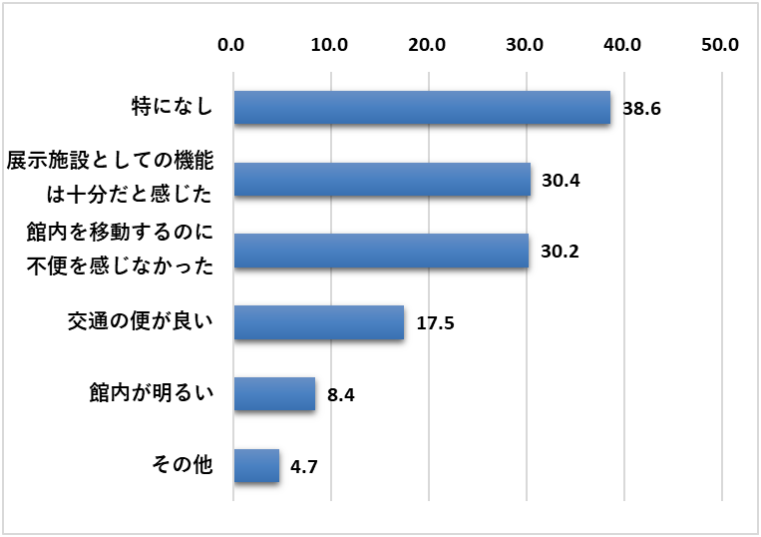
④来館の目的

「特別展・企画展」を見に来られた方が最も多く、42.9%を占めています。「常設展」も 28.5%と比較的高い割合になっており、前回アンケートと同じ傾向が見られます。「たまたま立ち寄った」や「学校見学」も一定の割合を占めています。その他の理由としては、「学校の課題や宿題のため」などがありました。



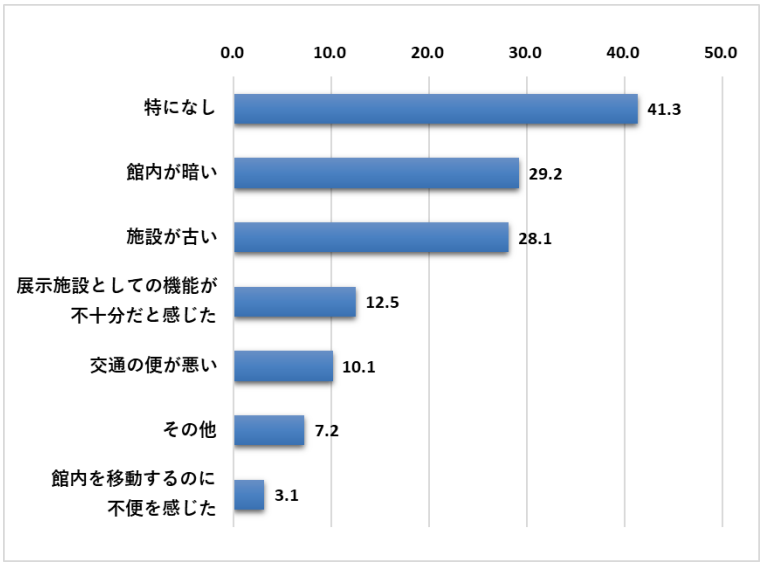
⑤博物館の施設面の評価

施設面や環境面で良かったところとしては、アンケートの特性上、来たことはあるがよく覚えていないという人が、「特になし」を選ぶ傾向があり、「特になし」が最も高くなっています。



次いで「展示施設としての機能は十分だと感じた」が30.4％「館内の移動に不便を感じなかった」が 30.2%、と続いています。その他の少数意見としては、「小規模で短時間で見て回れた」「造りがレトロで良い」「費用（入館料）が安い」「館外の環境がいい」という回答がありました。

良くなかったところとしては、「特になし」以外では、前回のアンケートに引き続き、「館内が暗い」と「施設が古い」が多くなっています。「展示施設としての機能が不十分」という意見も 12.5%ありました。

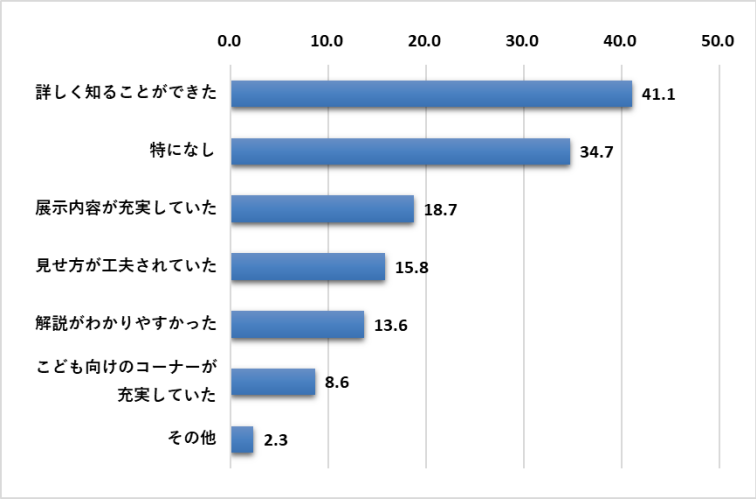


その他としては、「駐車場がわかりづらい（利用しづらい）」「駐車場が少ない、有料」など、駐車場に関する意見が多く寄せられており、ハード面で利用しやすい環境づくりが求められています。

少数意見として、「展示スペースが狭い」「休憩スペースがない」「私語に厳しい」などの意見がありました。休憩スペースは常設展示室内にあるのですが、場所を分かりやすくする、利用しやすい雰囲気をつくるなどの工夫が必要だと考えられます。

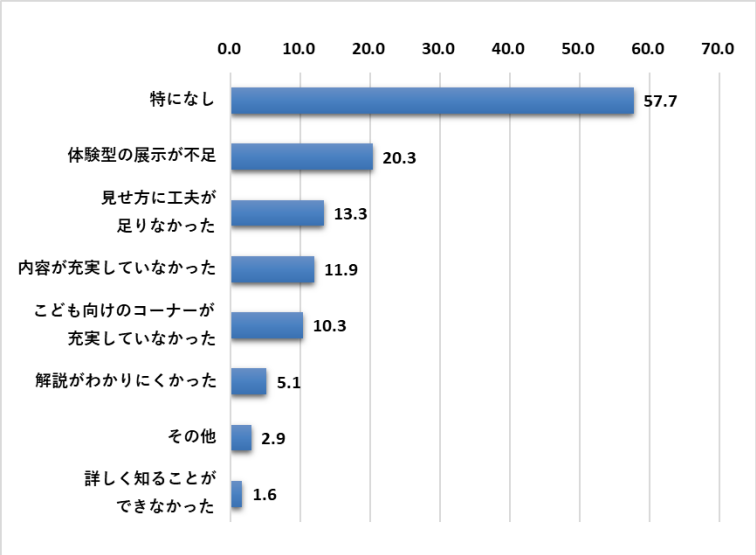
⑥博物館の展示面の評価

展示についての良かったところとしては、「歴史・文化について詳しく知ることができた」が 41.1%と最も高く、「展示内容が充実していた」が 18.7%。「見せ方が工夫されていた」が 15.8%、「解説がわかりやすかった」が 13.6%、「こども向けのコーナーが充実していた」は 8.6%にとどまりました。



その他の意見として、「県立博物館と比べて市立博物館は和歌山市の歴史や文化が詳しく展示されているのが良い」との評価もいただきました。県立博物館との差別化を図り、市の歴史文化を深く掘り下げるという独自性は変わらず強く求められています。

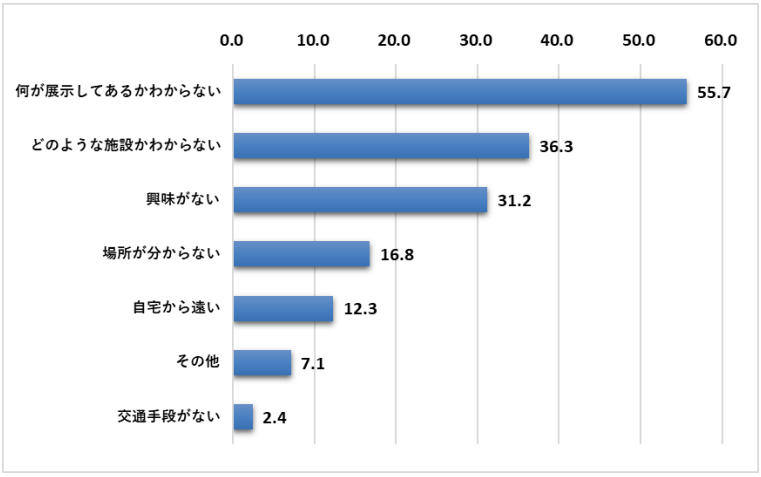
また、良くなかったところの中では、「体験型の展示が不足していた」が 20.3%と、「特になし」を除くと最も高い割合となっています。アンケート方式が違うので単純比較はできませんが、「展示内容が充実していなかった」や「解説がわかりにくかった」という意見に比べ、体験型展示の不足を挙げる意見の割合が、前回アンケートより増してきており、今後の課題となっています。



その他少数意見として、「展示物の説明が少ない」や「説明の位置が低くて読みづらい」というものもありました。限られたスペースの中で、いかに説明を分かりやすくかつ読みやすくしていくかという工夫が求められています。

⑦来館しない理由

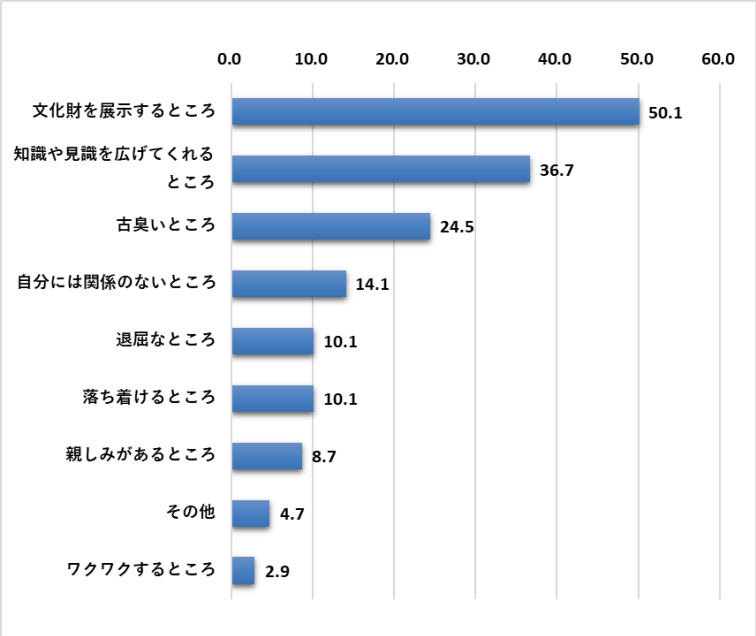
来館したことがない人の理由としては、「何が展示してあるかわからない」が 57.0%で最も高く、以下、「どのような施設か分からない」が 36.3%、「興味がない」が 31.2%と続き、傾向としては前回と似た結果となっています。展示内容についての一層の PR が必要であると考えられます。



その他の意見として、「行くきっかけがない」「子連れでは行きづらい」などがありました。また、施設面の評価の項目でもあったように、「駐車料金が高い」「駐車場が無い」という回答もあり、改修後の駐車場の存在や利用方法について広く周知し、利用しやすいように改善していく必要があります。

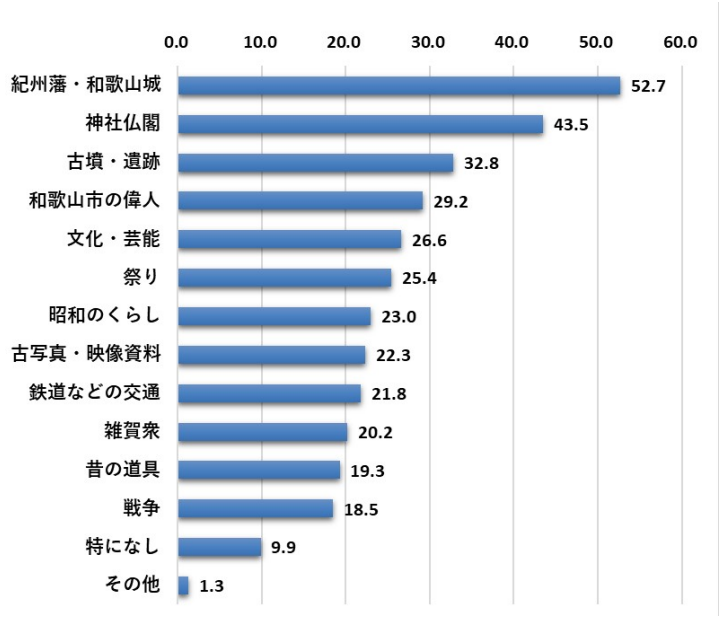
⑧博物館のイメージ

博物館に対するイメージは、「文化財を展示するところ」、「知識や見識を広げてくれるところ」という認識が高い一方で、「古臭いところ」や「自分には関係ないところ」という認識も一定割合で存在しました。「ワクワクするところ」というイメージを持っている人は 2.9%にとどまりました。全体の傾向としては、前回アンケートと大きな差が見られませんでした。



その他の意見としては、「環境が良い」「良い意味でレトロ感がある」という意見もある一方で、「特にイメージがない」という回答も多く、施設の広報活動をより一層充実させる必要があります。

⑨関心のあるジャンル

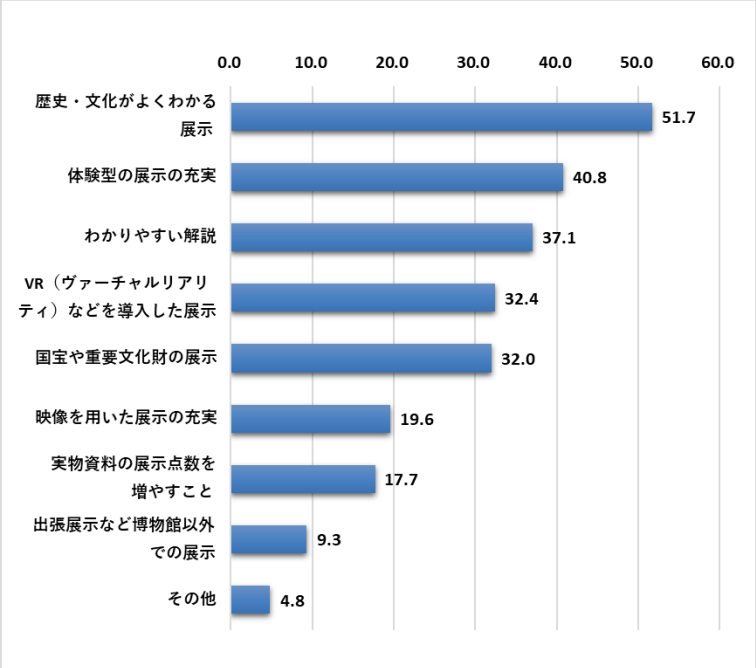


関心のあるジャンルとしては、前回のアンケートと同様に「紀州藩・和歌山城」が52.7%と最も高く、根強い人気が伺えます。以下、「神社仏閣」43.5%、「古墳・遺跡」32.8%、「偉人」29.2%、「文化・芸能」26.6%、「祭り」25.4%となっています。

「昭和の暮らし」や「古写真」など、現代に近い時代の展示も一定の人気があるようです。

その他の意見としては、「友ヶ島（砲台跡）」や「戦争のときのトーチカなど、戦争の生き証人のようなもの」というものがありました。

⑩展示に望むこと

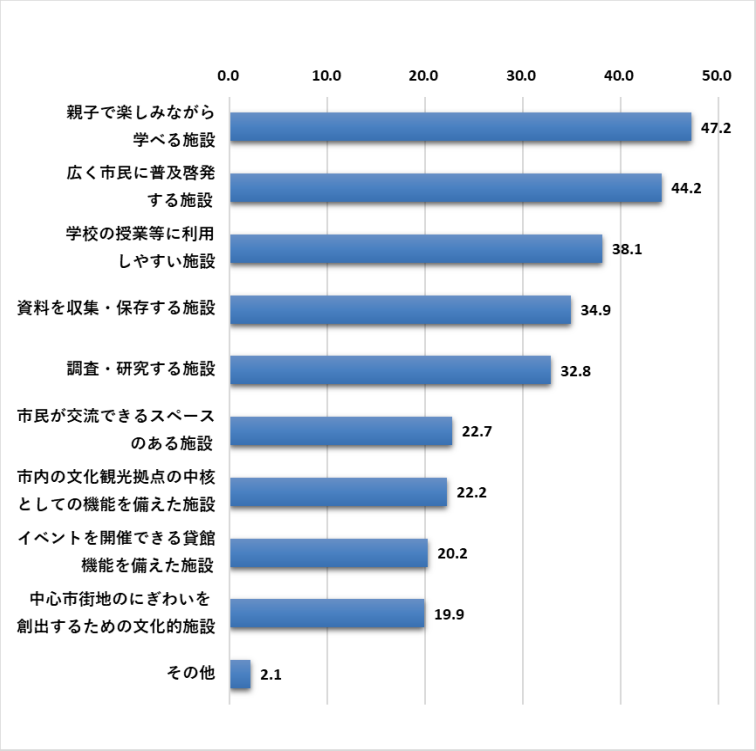


「和歌山市の歴史・文化がよくわかる展示」が 51.7%と最も高く、⑥でも挙がっていた「体験型展示の充実」が40.8%と二番目に高い割合となっています。以下、「わかりやすい解説」37.1%、「VR などを導入した展示」32.4%、「国宝や重要文化財の展示」32.0%と続きます。

その他の意見としては、「ストーリー性のある展示」「スタンプラリー」「ナイトツアー」「子連れに優しい環境」などがありました。

⑪どのような施設であってほしいか

「親子で楽しみながら学べる施設」が 47.2%と最も高く、「市内の歴史・文化を、広く市民に普及啓発する施設」44.2%、「学校の授業等に利用しやすい施設」38.1%、「市内の文化財や文化的価値のある資料を収集・保存する施設」34.9%と続いています。博物館の本来業務と言える「収集・保存」や「展示・普及」が求められている一方で、親子で楽しめることや、学校教育に利用できることなど、こども向けの展示の充実が強く求められていることが分かります。



その他の意見としては、「若者を和歌山に引き付けるような施設」「飲食店やカフェの併設」「わくわくする施設」などがありました。

また、市立博物館に対する自由記入の意見としては、「気軽に入りやすい雰囲気づくり」を求める声や「何が展示してあるかの PR」をしっかりしてほしいという声が多数ありました。「小さい子を連れて入っていいものか躊躇した」という意見もあり、親しみやすさや入りやすい雰囲気作りが求められています。

過去に訪れたことがある人の意見の中には、「市民会館や市立図書館がなくなったことで足が遠のいた」「入口がわかりにくくなった」「市駅から市堀川方面に歩いていく歩道が通行しづらい」というものもあり、博物館を取り巻く環境の変化に柔軟に対応していくことが求められています。

「訪れたことがない」人の意見としては、「県立博物館と重複している」「県立博物館と統合した方が良い」という意見もありました。⑥展示面の評価で示した、県立博物館とは違う市立博物館の独自性を強化するとともに、その面を広く普及・啓発していくことが必要不可欠と思われます。

アンケート結果のまとめ

▶博物館に来館した市民は 52.5%と前回より増加しており、展示に関しても「歴史・文化について詳しく知ることができた」と一定の評価が得られています。一方で、来館したことがない理由として、「何が展示してあるかわからない」などの理由が上位に来ており、展覧会等博物館行事のより効果的なＰＲを進めていく必要があります。

▶市民の関心のあるジャンルは「紀州藩・和歌山城」などであり、それらと深く関わる「近世」の展示をこれまで以上に充実させ、市立博物館ならではの独自性を掘り下げていくことが必要です。

▶施設面での評価として、「館内が暗い」「施設が古い」などの意見が多く寄せられました。老朽化対策なども含めたハード面の改修が課題として挙げられます。また、図書館や市民会館の移転によって行く機会が減ったという意見もあり、博物館周辺の環境の変化に対応していくことが求められています。

▶博物館のイメージは前回調査時から変わっておらず、「歴史・文化がよくわかる展示」が求められています。また、「親子で学べる展示」や「授業にも利用できる展示」といった子ども向けの展示への要望が多く寄せられています。アンケート回答者に占める 30 代～50 代の割合が高いことが影響していると考えられますが、「体験型展示」や「映像コーナー」といった子どもの興味・関心を引く設備の導入などの工夫が必要です。これまで取り組んできた展示の見せ方の工夫だけでなく、ソフト面での展示内容の大幅な改革が求められています。

（３）館内アンケート結果概要

ここからは実際に博物館に来館された方から回収した館内アンケートの結果を基に、直近の博物館を直接体感した人がどのような意見を持っているか、またどのような博物館を求めているかをみていきます。

館内アンケートの期間：令和６年５月２２日～７月 31 日
回収方法：博物館受付で配布し、記入してもらったものを再度受付で回収
回答数　：293 人

回答者の 39.6%が初めての来館でした。一方で、平成 30 年度以前から何度も来ているという方も多くいらっしゃいました。

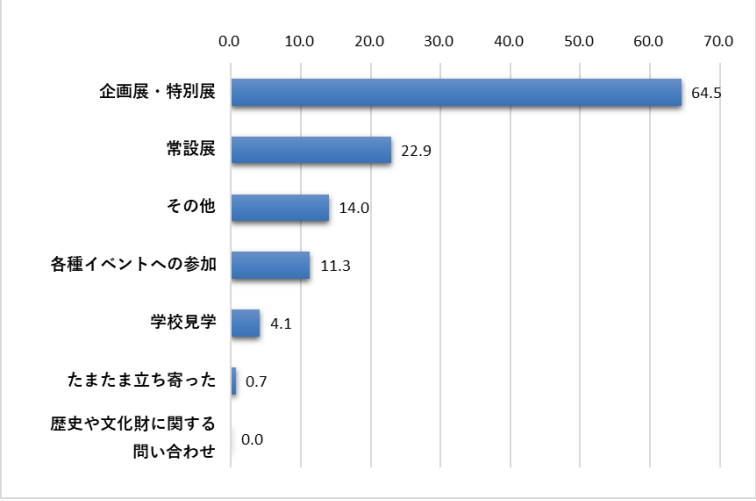
また、来館頻度は右表のとおりであり、21.2%の人が、年に複数回来館されています。

内訳	人数	%
月に 1 回以上	21	7.2
年に 3～4 回程度	41	14.0
年に 1 回程度	47	16.0
2～3 年に 1 回程度	33	11.3
初めて	116	39.6
前に来た時期不明・未回答	35	11.9
合計	293	100

① 来館の目的

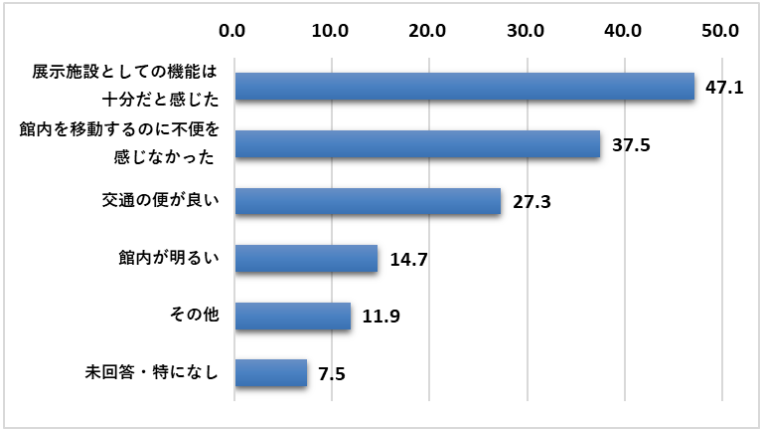
アンケート実施期間のほとんどが企画展開催時期だったことから、「企画展」を見に来られた方が最も多く、64.5%を占めています。

「常設展」も 22.9%と比較的高い割合になっています。その他としては、「和歌山大空襲」の上映や、「他の施設に来たついで」などがありました。



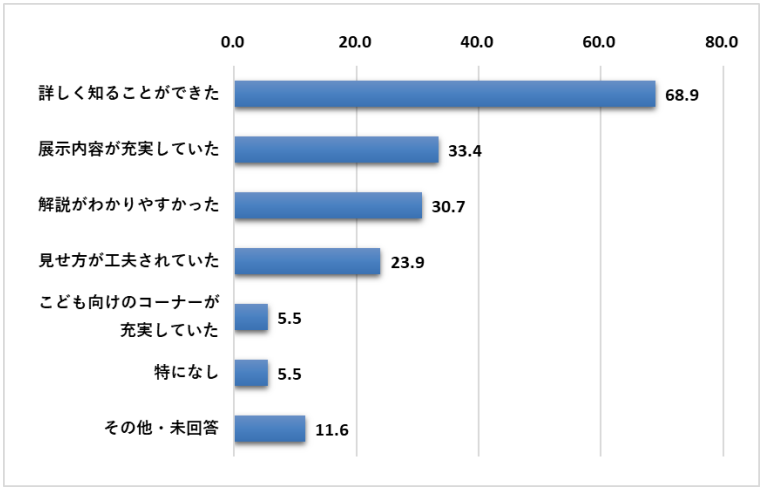
②博物館の施設面及び環境面の評価

来館者に対し、施設面や環境面で良かったところを聞いた結果、「展示施設としての機能は十分だと感じた」が47.1%、「館内の移動に不便を感じなかった」が37.5%と続いています。良くなかったところでは、「特になし」が最も高く、施設面や環境面では、おおむね高い満足度が得られたと考えられます。



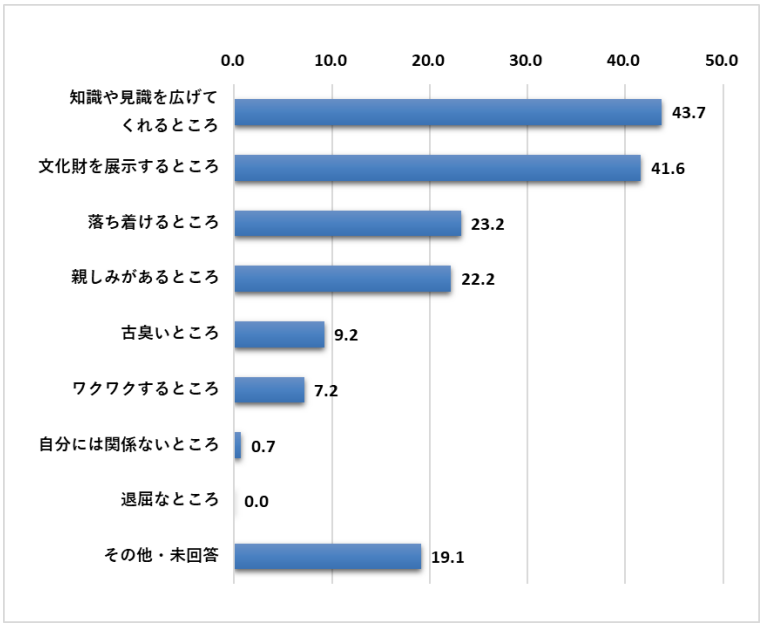
③博物館の展示面の評価

展示について良かったところを聞いた結果、「歴史・文化について詳しく知ることができた」が 68.9%と最も高く、「展示内容が充実していた」、「解説がわかりやすかった」と続きます。インターネットモニターのアンケートよりも、実際に来館した方のアンケートの方が、満足度が高くなっています。一方、こども向けのコーナーが充実していたという回答は、インターネットモニターのアンケートと同様、少ない結果となりました。



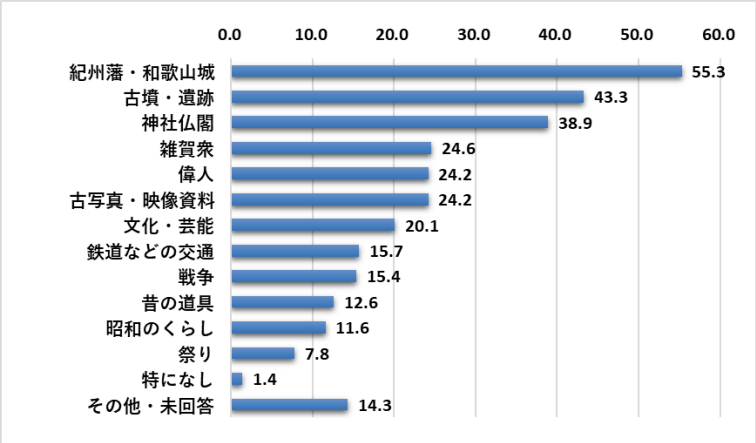
④博物館のイメージ

博物館に対するイメージとしては、「知識や見識を広げてくれるところ」「文化財を展示するところ」という回答が上位に来る点や、「ワクワクするところ」の割合が少ない点は、インターネットモニターのアンケートと同様でした。一方、「落ち着けるところ」「親しみがあるところ」の割合が多くなっており、来館者は博物館の雰囲気を大事にしているということが伺えます。



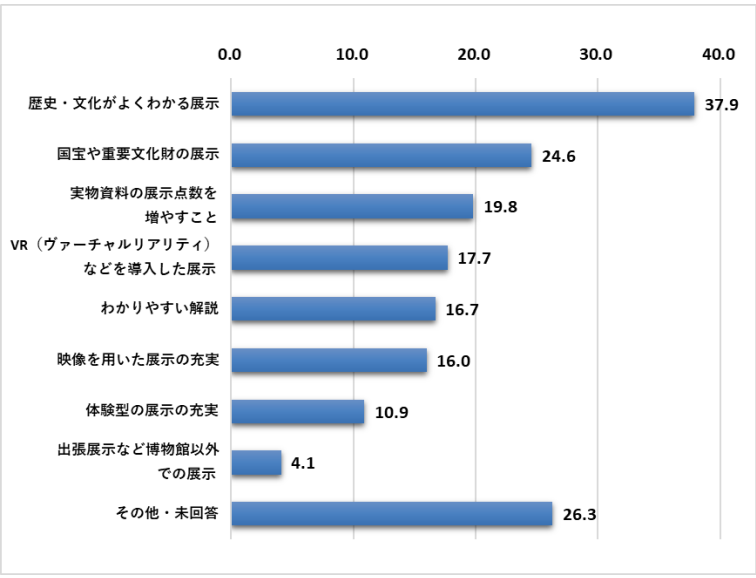
⑤関心のあるジャンル

関心のあるジャンルとしては、インターネットモニターのアンケートと同様に、「紀州藩・和歌山城」が 55.3%と最も高く、続いて「古墳・遺跡」や「神社仏閣」が上位に来ています。「昭和のくらし」や「祭り」は、インターネットモニターのアンケートに比べると低くなりました。



⑥展示に望むこと

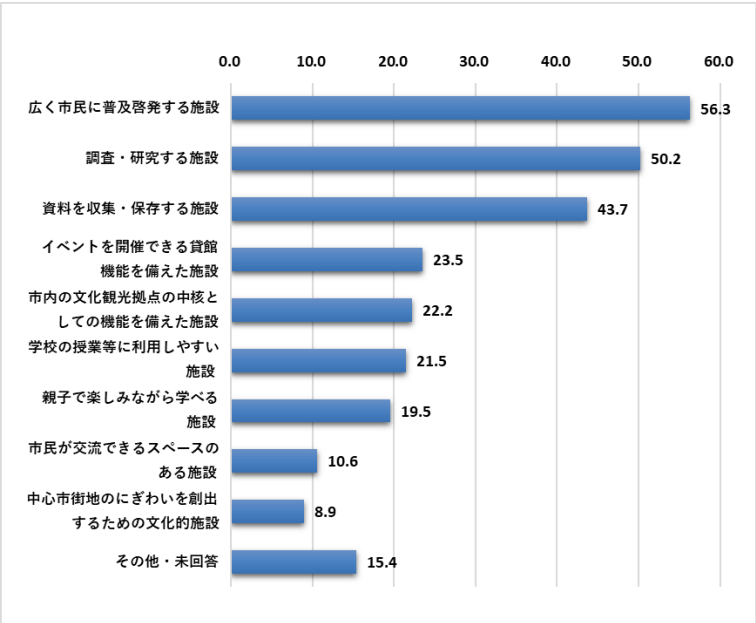
「和歌山市の歴史・文化がよくわかる展示」が 37.9%と最も高い点では、インターネットモニターのアンケートと同様ですが、「体験型展示の充実」が下位に来ていることや、「国宝や重要文化財の展示」「実物資料の展示点数を増やす」が上位に来ている点は異なります。展示の工夫よりも、展示品の質を重視している人が多いことが伺えます。



⑦どのような施設であってほしいか

「市内の歴史・文化を、広く市民に普及啓発する施設」が 56.3%、「調査・研究する施設」が 50.2%と上位に来ており、インターネットモニターのアンケートで最も高かった「親子で楽しみながら学べる施設」は 19.5%にとどまりました。

館内アンケート結果からは、博物館の従来の役割を求める人が多いことが伺えます。



⑧インターネットモニターと館内アンケートの共通点及び相違点

	共通点	相違点
来館目的	❖どちらも企画展（特別展・企画展）が多い。	★館内アンケートでは、学校見学という回答が少なかった。
施設面や環境面への評価	❖「展示施設としての機能は充分だった」など、おおむね高評価が多かった。	★館内が暗い、施設が古い、という意見は、館内アンケートの方が少なかった。
展示面への評価	❖「歴史・文化について詳しく知ることができた」という回答が多く、概ね高評価が多かった。	★館内アンケートの方が、展示内容の充実や解説の分かりやすさへの評価がより高くなっていた。
博物館に対するイメージ	❖知識や見識を広げてくれるところ、文化財を展示するところなど、上位は変わらない。	★館内アンケートでは、落ち着けるところや親しみのあるところなどの回答割合が増えていた。
関心のあるジャンル	❖紀州藩・和歌山城が最も関心があり、古墳や神社がそれに続く。	★昭和の暮らしや祭りなど、館内アンケートでは少し低くなっていた。
展示に望むこと	❖最も望むことは「歴史・文化がよくわかる展示」であった。	★インターネットモニターのアンケートでは体験型展示が上位に来たが、館内アンケートでは、国宝や重要文化財の展示、実物資料の展示点数の増加の方が上位だった。
どのような施設であってほしいか	❖市民に普及・啓発する施設、資料を収集・保存する施設が上位に来ている。	★親子で楽しみながら学べる施設や学校の授業等に利用しやすい施設の割合が、館内アンケートでは、低くなっていた。

館内アンケートのまとめ

▶来館頻度としては、年に何度も来館されている方が 20%程度いる一方、初めて来たという方も半数以上いらっしゃいました。

▶市民アンケートの結果に比べると、展示に対する評価など、満足度が高い傾向にあり、前回計画策定以降の取組みが一定程度評価されたものと思われます。

▶体験型展示や親子で楽しみながら学べる施設を望む声は、インターネットモニターに比べると少ない結果が出ました。回答者を年代別に見ると、館内アンケートでは、シニア層が多かったことによる差が出たと考えられます。

第３章　評価指標の達成状況

「和歌山市立博物館基本計画」において設定した主な評価指標の達成状況について、一覧表および各指標の現状や課題について整理します。

評　価　項　目	単位	基準値 （平成 27 年度から令和元年度の平均値）	目標値 （令和 6 年度）	実績値 （令和 6 年度）	達成度
資料調査件数	件	117	150	167	111%
常設展展示替え回数	回	14	20	50	250%
特別展満足度	%	93	95	95.3	100%
展覧会イベント数	回	20	25	36	144%
校区探検・出前授業等の館外事業参加者	人	139	300	736	245%
マスコミへの情報提供件数	件	245	300	180	60%
ホームページアクセス数	件	37,842	50,000	123,873	248%
博物館認知度	%	75	90	87.3	97%

（１）資料調査件数

基本計画における目標達成状況	○目標 150 件に対し 167 件と、目標値を上回っている。
現状	○夏の特別展が企画展に変わったことで、館外資料の調査数は伸びていないものの、展覧会の回数は増えており、市内資料も含めた調査件数は増加している。 ○市民からの調査依頼にも対応している。
課題	○市内での資料調査の機会を抜け目なくとらえ、研究に活かしていく必要がある。 ○展覧会の内容によって調査件数が増減するため、調査件数のみならず、公開に係る新たな指標についても検討する必要がある。

写真：（左）馬冑（大谷古墳）（重要文化財／国所有）（右）陸奥宗光（写真／館蔵）

（２）常設展展示替え回数

基本計画における目標達成状況	○資料保護の理由もあり、現物資料については定期的に展示の入れ替えを実施している。その結果、展示替え回数は毎年増加し、令和６年度には、目標 20 回を大幅に上回る 50 回実施となっている。
現　状	○重要文化財の大谷古墳の資料については、定期的な入れ替えの際に展示テーマを設定することにより、展示替えの広報活動につなげることができている。 ○市内の行事（和歌祭など）やマスメディアでの取り上げられ方にあわせて、関連資料を積極的に展示し、SNS で素早く発信している。市民に関心を持ってもらえる機会を極力逃がさず、展示できる体制を整えている。 ○令和６年度には、作家・有吉佐和子に関する資料を常時展示するコーナーを常設展示室内に設けており、近隣の有吉佐和子記念館との巡回ができるようにしている。
課　題	○資料点数の多い考古・近世コーナーの展示替えが増えた一方、それ以外のコーナーでの展示替えは進んでおらず、調査・研究を深めていく必要がある。 ○有吉コーナーを設置することで、他の資料を展示するスペースが減っており、常設展示室内全体の展示方針の見直しが必要である。

写真：（左）常設展示室　（右）常設展示室（有吉コーナー）

（３）特別展満足度

基本計画における目標達成状況	○期間を通じて 90%をこえる満足度を達成しており、やや下回る年もあるものの、令和６年度には 95.3%の満足度が得られるなど、おおむね目標を達成できている。
現　状	○令和４年度には、表千家同門会の全国大会が和歌山市で開催されることに絡めた特別展を実施、令和５年度には、令和２年度に日

	本遺産となった葛城修験をテーマとした特別展を実施するなど、市民が関心を寄せている他の事業に絡めた展覧会を企画したことが、入館者増や満足度の向上につながっている。 〇令和６年度は、陸奥宗光の生誕 180 年や聖武天皇の和歌の浦行幸 1300 年といった周年を記念した展覧会を実施することで、市民に対して郷土の歴史を知っていただく機会を設けることができた。
課　題	〇周年事業や他の事業に絡めたテーマ設定を継続するとともに、新たな資料や視座を市民に提供し、和歌山市の魅力向上につながる特別展を実施していく必要がある。

写真：（左）特別展（表千家とわかやま）　（右）特別展（葛城修験の世界）

（４）展覧会イベント数

基本計画における目標達成状況	〇コロナ禍による展覧会中止やイベント自粛の影響を受けつつも、目標 25 回に対し、令和６年度は 36 回と、目標を達成している。
現　状	〇特別展の開催が年１回となり、外部講師を招いた講演会の回数は伸びていない。一方で、企画展の回数は増えており、展覧会にまつわるイベント頻度は高まっている。 〇体験学習などの接触を伴うイベント回数は、コロナの影響を受けているものの、徐々に回復してきている。
課　題	〇自粛していたイベントを従来の頻度に戻し、広く市民に周知していく必要がある。 〇従来のイベントとは異なる新たな企画の展開も必要である。

写真：（左）体験イベント「むかしの道具って使えるの？遊べるの？」　（右）「歴史を語る道具たち」教育プログラム

（５）館外事業参加者

基本計画における目標達成状況	○コロナ禍によるイベント自粛や人数制限により、一時的に減少したが、令和６年度は 736 人であり、目標を大幅に上回っている。
現　状	○学芸員が館外施設で講演等を行う機会は増えてきている。 ○シンポジウムのオンライン開催など、新たな館外事業の形も広がりつつある。
課　題	○館外事業を積極的に広報し、さらなる参加者増に結びつけていく必要がある。 ○館外事業を依頼しやすい環境（HP の整備やネットワークづくり）を整えていく必要がある。

写真（左）史跡散歩（平井周辺を歩く）

（右）史跡散歩（直川を歩く）

（６）マスコミへの情報提供件数

基本計画における目標達成状況	○コロナ禍によるイベント減少の影響を受け、情報発信や取材を受ける機会が減少している。目標 300 件に対し、令和６年度は 180 件であり、達成率は 60%となっている。
現　状	○展覧会開催ごとに報道関係へ広報資料の提供を行っており、それをメディア取材の機会に結びつけている。 ○また、X（旧 Twitter）などの SNS を活用した自主的な情報発信も行っており、X のフォロワー数は増加し続けている。
課　題	○マスコミへの情報提供だけでなく、館蔵資料について画像提供や取材の依頼があり、本項目だけでは情報発信に関する評価を測りきれない側面がある。 ○展覧会に関する情報提供以外にも、イベントや館蔵資料について、積極的に情報発信する必要がある。

（7）ホームページアクセス数

基本計画における目標達成状況	○ホームページで発信している情報は大きく変化していないが、目標 50,000 件に対し、令和 6 年度は 123,873 件のアクセスがあり、目標を大幅に上回っている。
現　状	○当館の情報発信の一つの基地として、ホームページが重要な役割を担っており、当館の情報を調べるための最初の窓口となっているものと思われる。 ○SNS では速報性の高い情報や期限の迫った情報などを発信し、ホームページでは基本的な施設情報や展覧会情報などを掲載するようにしている。
課　題	○多言語や視覚障害者の利用には対応しておらず、博物館の基本的な情報に誰でもアクセスしやすくなるよう整備を進める必要がある。 ○ホームページでは施設やイベントの情報が得られる一方、館蔵資料や資料を利用したデジタルコンテンツがなく、当館の中身につながる情報は得にくい。館蔵資料についてもアクセスできるよう、館蔵資料のデジタルコンテンツへの利活用を進めることが必要である。

写真：（左）和歌山市立博物館ウェブサイト　（右）和歌山市立博物館公式Twitter

（8）博物館認知度

基本計画における目標達成状況	○目標 90%に対し、インターネットモニターを利用した市民アンケートの結果 87.3%の認知度が得られた。
現　状	○目標には届いていないが、前回計画策定時点より 12.2%増加しており、着実に認知度は上がっていると考えられる。
課　題	○知っているが訪れたことはない、という方も一定割合存在し、市立博物館の展示内容をより一層広報し、多くの人に興味を持ってもらう必要がある。 ○来館が困難な方に対しても、博物館資料に触れる機会を幅広く提供する工夫が必要となる。

自己評価のまとめ

▶令和元年度～令和５年度、博物館の運営は「和歌山市立博物館基本計画」に基づき行われ、設定した評価指標８項目のうち、６項目が達成されていました。入館者数目標は、コロナ禍の影響を受けたこともあり、目標値には届きませんでした。

▶地道な資料の収集・保管と調査・研究活動を行い、それらの成果は、定期的な展示の入れ替えによって公開されてきました。

▶周年事業や他の事業に絡めたテーマを設定することで、特別展はおおむね満足度の高い結果が得られています。

▶館外事業への参加者は、コロナ禍において一時的に制限を受けましたが、徐々に回復し、シンポジウムやワークショップなどの様々な館外事業を積極的に展開したことで、目標値を大幅に上回りました。今後も、学芸員による講演等を依頼しやすい環境づくりを進めていきます。

▶有吉佐和子記念館など、近隣の歴史・文化施設との連携を強めてきましたが、引き続き、周辺環境の変化に対応し、周辺施設との連携を強化していく必要があります。

▶当館の存在をアピールし、認知度をさらに向上させるため、SNS を利用した情報発信力の強化や館蔵資料のデジタルコンテンツへの利活用を進めていく必要があります。

▶基本理念に基づいた活動を進めていくための評価指標を見直す必要があります。従前の資料調査件数については、調査成果と公開を合わせた指標とするため、館蔵資料のオンライン公開点数へと変更します。また、これまではマスコミへの情報提供件数を設定していましたが、館蔵資料の取材や画像提供なども含めたマスメディア等への情報提供件数と変更するとともに、教育プログラムを利用して来館する市内小学校の割合も目標値として新設します。

第４章　抽出した課題

「市民アンケート」「館内アンケート」「評価指標の達成状況」の結果に基づき、展示内容や講座等の諸事業の分析・点検、施設の状態、入館者の現状から次のような課題を抽出しました。

１　博物館には、和歌山市の歴史・文化に対する市民の愛着と誇りを深めていくという役割があり、地域にとってなくてはならない存在です。当館には市民が関心を抱く「紀州藩」「和歌山城」や、日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」に関する資料が多く収蔵されており、熊野古道などの和歌山県内全域の資料を展示する県立博物館とは異なる特徴を有しています。こうした市独自の資料の活用を一層進めることで、その存在感及び独自性を広く市内外に積極的に情報発信していく必要があります。

地域の博物館としての存在及び役割を広くアピールしていく必要があります

２　アンケートでは、「歴史・文化について詳しく知ることができた」と展示内容に一定の評価が得られた一方、体験型展示や映像など、展示に親しむ多様な手法が求められています。また、前回計画策定の頃に比べ、駐車場が分かりにくくなったという意見や、小さい子連れでは来館しづらいという意見もあり、博物館の周囲を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、気軽に訪れやすい環境を作る必要があります。

市民が来館しやすい、親しみやすい博物館にしていく必要があります

３　インターネットモニターによるアンケートでは「親子で楽しみながら学べる施設」が求められている一方、来館者アンケートでは、「普及・啓発」「調査・研究」「収集・保存」という機能を求める声も多く寄せられています。博物館本来の役割である保存・展示・研究の場としての機能を維持しつつ、展示方法の工夫や積極的な館外活動を通じて、子どもから大人まで幅広い層に向けて、市の歴史や文化に触れる機会及びそれらを楽しみながら学べる機会を提供するための取り組みが必要です。

子どもも大人も楽しみながら学べる博物館をめざしていく必要があります

４　地域の博物館として、観光やまちづくり、生涯学習等の分野とも連携し、それぞれの課題について貢献していく必要があります。市民の関心の高いジャンルには、観光と密接に関わる分野も多いことから、観光分野との連携強化を進めるとともに、まちづくり関連の施策と連携し、周辺観光施設への出張展示や地域の企業との協力関係を強化することで、博物館の研究成果を地域活性化に活かしていくことが求められます。

他分野との連携を強化し、博物館としての研究成果を地域貢献に活かしていく必要があります

第５章　基本理念と基本方針

１　基本理念

博物館の現状と課題、市民のニーズ、また設置目的に掲げる歴史文化の理解を深め、研究・発展に寄与するという博物館の特性をふまえ、基本計画で策定した理念を引き継ぎます。

誰もが市の歴史に親しみ、楽しく学べる博物館
市の歴史･文化を継承し、
未来の創造とにぎわいの創出に貢献する知の拠点

２　基本方針

基本理念の実現に向け、４つの基本方針を定めます。

基本方針１「歴史･文化の拠点」としての博物館

収集保管、展示、調査研究、教育普及に加えて、活用、連携、学習機能を充実させることで、和歌山市の歴史・文化の魅力を発見できる博物館にします。「歴史・文化の拠点」として様々な情報を発信し、「紀州藩」、「和歌山城」などの市の独自性の高い展示を通して存在感をアピールしていきます。また、館蔵資料のデータベース化を進めます。

基本方針２　親しまれ、訪れやすい博物館

魅力ある展示や環境整備により、市民の誰もが気軽に訪れ、歴史・文化に親しみやすい博物館を目指します。また、出張展示や出前講座などを通して、豊かな歴史・文化に触れる機会を多く作り、市民一人ひとりにわがまち和歌山への誇りや愛着が育まれる博物館にしていきます。

基本方針３　人を育てる博物館

学校教育との連携を強化し、子どもたちが「博物館で学ぶ」ことを通じて、わがまちの未来を切りひらく子どもの育成につなげるとともに、大人も学べる生涯学習の場として地域の歴史文化を支える人材を育てる博物館にします。

基本方針４　観光やまちづくりと連携した博物館

博物館のもつ歴史的・文化的資源を活用し、市民や観光客が気軽に立ち寄れる観光拠点を備えるとともに、和歌山城など他の歴史・文化施設や周辺地域との連携を強化し、観光やまちづくりにつながる博物館を目指します。

第６章　取 組

基本方針1 「歴史･文化の拠点」としての博物館

「紀州徳川家」「和歌山城」など、地域の魅力を最大限に伝える博物館を目指します。

取組方針

①博物館をまず知ってもらうよう情報発信するとともに、市民のニーズに応えた展示を行うなど、「歴史・文化の拠点」としての役割をアピールしていきます。
②地域の歴史・文化を探求するため、調査研究を継続的に行い、地域性を活かした博物館として貢献することを目指します。
③資料の収集・整理に努めるとともに、公開に向けてデータベース化を進めます。
④良好な資料保存環境を維持します。
⑤災害に備え、地域の博物館として文化財レスキューの体制強化、来館者や所蔵品の安全確保などに取り組んでいきます。

主な取組

①-１ 博物館の情報について、幅広く広報するとともに、他の文化施設、文化財の情報発信にも積極的に取り組み、「歴史・文化の拠点」として博物館を位置付けます。
①-2「紀州藩・和歌山城関連」や「神社・仏閣」、「古墳・遺跡」、「雑賀衆」など、人気の高い分野の文化財を活用し、和歌山市立博物館の独自性を強化するとともに、新たなテーマの展示等を通して、集客力を高めていきます。
①-3 常設展示室の「コーナー展示」を継承し、博物館が誇る優品やコレクションの展示、新指定文化財の速報展示など、テーマ性の高い展示を行い、定期的に更新します。
②市史編纂室から継承した市史資料の管理事業を継続し、地域の歴史や文化を保存していきます。
③館蔵資料のデータベース化を進め、文化遺産オンラインなどを活用することで、Web での閲覧を可能にしていきます。
④-1 貴重な資料が適切に保存されるよう、収蔵庫内の環境維持に努めます。
④-2 公共施設マネジメント方針に基づき、老朽化した施設の長寿命化を図ることで、資料の良好な保存環境を保ちます。
⑤和歌山における文化財レスキューの組織「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」や「歴史資料保全ネット・わかやま」などへの積極的参加とメンバー同士の連絡体制の強化を図っていきます。

基本方針2　親しまれ、訪れやすい博物館

開放的な空間作りと分かりやすい展示に努め、
誰もが訪れやすい親しみのある博物館を目指します。

取組方針

①誰もが「わかりやすく・楽しく」学べる博物館を目指します。
②市民にとって和歌山への誇りや愛着が持てる魅力ある展示、多様な情報を提供していきます。
③来館者がそれぞれの利用目的やニーズに応じて、有意義な時間を過ごせるように整備し、より充実した利用者サービスを提供します。
④誰もが使いやすく、安全で快適な、人にやさしい施設を目指し、常設展の大幅な見直しなどリニューアルを進めていきます。

主な取組

①-１復元模型や映像といった体感型展示、資料に触れてみる展示など、わかりやすく、かつ実感として楽しく学べる展示を行います。
①-２様々な情報機器を活用し、簡単な情報（解説）から詳しい情報（解説）まで、来館者が楽しみながら選択できるよう、多様なニーズに対応できる展示を目指します。
①-3 各種講座や体験学習など、歴史について楽しく学べるイベントを充実させます。
②-1 市民のニーズに応えて、博物館を身近に感じてもらえるように出張展示や出前講座などを行っていきます。
②-2 博物館の活動やイベントについて SNS 等で情報発信するとともに、地域のイベントとも連携し、地域住民や地元の学生との関係を深めていきます。
③-1 エントランスを明るく開放的な空間にし、休憩スペースを整備することで、気軽に訪れやすい雰囲気を作っていきます。
③-2 親子で楽しみながら学べるような展示やイベントを充実させていきます。
④-1 施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入に取り組み、誰もが利用しやすい施設にします。
④-2 外国の方にも分かりやすくするため、展示解説の多言語表記や QR コードを用いたガイダンス機能を充実させます。

基本方針3　人を育てる博物館

子どもから大人まで楽しみながら歴史・文化を学べる博物館を目指します。

取組方針

①学校教育との連携を進め、一層活用される博物館を目指します。
②子どもたちにも理解しやすい展示や興味を持ちやすい解説に取り組みます。
③生涯学習の場としての機能を充実させます。
④博物館友の会創設の検討を進めます。
⑤より多くの情報をより理解しやすく伝えるため、新しい技術を活用した展示方法の導入を検討します。

主な取組

①学校教育との連携を強化し、和歌山市の「学校教育指針」の教育に活用できる各種教育プログラムを整備します。
②-1 子ども向けのやさしい内容の解説パネルを導入し、子どもが地域の歴史・文化に興味をもつきっかけづくりに努めます。
②-2 地域で学べる「おでかけ歴史講座」や各小学校区の文化財を案内する「校区探検」などを強化し、地域への貢献を目指します。
③様々な学習ニーズに対応できるよう、博物館を活用した学習相談会や各種学習メニュー、学習プログラムを整備します。
④博物館を支え、集い、互いに交流し、地域の歴史文化を支える人材として成長していく人たちが集まる博物館友の会の創設を検討します。
⑤VR 等の情報機器を用いた展示方法の導入を検討します。

基本方針4　観光やまちづくりと連携した博物館

「城下町和歌山」をはじめとする、和歌山市内の歴史・文化観光拠点としての博物館を目指します。

取組方針

①和歌山の歴史・文化の拠点として、市民や観光客など多くの人々が「城下町和歌山」など市内の各地域に出向くきっかけとなるよう、情報収集・発信を図ります。
②和歌山城や市民図書館、和歌山城ホールなどの施設との連携を強化し、文化的資源を活用する拠点として機能させていきます。
③和歌山の歴史や文化を国内のみならず、海外に向けてアピールするとともに、外国人観光客の興味と関心を引きつける展示を目指します。
④観光資源につながる歴史の掘り起こしに留意し、地域における博物館として、まちづくりにも貢献することを目指します。

主な取組

①文化財の保存から活用への観光振興が図れるよう、「城下町和歌山」をはじめとする和歌山の歴史・文化の情報を集積し、市民や観光客に提供していきます。
②和歌山の歴史・文化を活用した観光拠点として、エントランスホールに和歌山の歴史・文化遺産のガイダンスコーナーを設けるなど、和歌山市の歴史・文化観光における拠点機能を備えます。
③展示解説や館内外の案内、HP や各種パンフレット等の多言語化を促進するとともに、SNS 等での英語による発信などを展開し、外国人利用者へのサービスの充実を図ります。
④-１館内写真撮影の自由化を促進し、SNS 等を通した積極的な情報発信を図ることで、市民や観光客を巻き込んだ地域のにぎわいづくりに貢献します。
④-２市内各地域の歴史の調査研究をより一層推進し、地域のまちづくり等で文化財の活用を図りながら、地域貢献に努めます。
④-3 旧市民会館跡地活用事業の動向を注視し、複合施設等が整備された場合は、施設利用者やイベント参加者が訪れやすい導線づくりに取り組みます。
④-4 地域の企業や団体との協力関係の構築に取り組み、地域貢献の実現を目指します。

計画体系

基本理念

誰もが市の歴史に親しみ、楽しく学べる博物館
市の歴史・文化を継承し、
未来の創造とにぎわいの創出に貢献する知の拠点

基本方針①	「歴史・文化の拠点」としての博物館	「紀州徳川家」「和歌山城」など、地域の魅力を最大限に伝える博物館を目指します。	→ 取組方針・主な取組
基本方針②	親しまれ、訪れやすい博物館	開放的な雰囲気作りと分かりやすい展示に努め、誰もが訪れやすい親しみのある博物館を目指します。	→ 取組方針・主な取組
基本方針③	人を育てる博物館	子どもから大人まで、楽しみながら歴史・文化を学べる博物館を目指します。	→ 取組方針・主な取組
基本方針④	観光やまちづくりと連携した博物館	「城下町和歌山」をはじめとする、和歌山市内の歴史・文化観光の拠点としての博物館を目指します。	→ 取組方針・主な取組

第７章　計画を進めるにあたって

第２次基本計画を進めるにあたっては、次のような点に留意し、本計画を進めていきます。

１　運営について

（１）安定的な運営を図っていきます

管理運営のあり方について、民間のノウハウの活用可能性について引き続き研究・検討し、時代の変遷や周辺環境の変化に柔軟に対応するために、不断の見直しを行います。これにより、安定的な運営を図るとともに、体制の整備に努めます。また、市民をはじめとする利用者のニーズを的確に把握し、ニーズに応じた諸事業を展開することによって、利用者の増加を図り、効率的な運営に努めます。

（２）市民参加、市民協働を進めます

地域の博物館として成り立っていくためには、博物館は市民参加を求め、市民協働で運営に取り組んでいく必要があります。新たな担い手と博物館とが連携できる環境を整備するため、地域のボランティアや各地域団体、各学校との積極的な連携を進めることによって、博物館活動を活性化させます。

（３）博物館のリニューアルを進めます

様々な利用目的やニーズを持つ来館者に対応できるよう、常設展の大幅な見直しやエントランスの整備などのリニューアルを進め、誰もが訪れやすい博物館へと進化することを目指します。

（４）館内外での活動の充実や出張展示の充実をはかります

出前講座や校区探検、史跡散歩等の館外事業を引き続き実施し、地域の歴史に触れる機会を提供するとともに、来館したことがない市民にも博物館を身近に感じてもらえるよう、館内でのイベントも充実させます。また、和歌山城ホールや有吉佐和子記念館などの周辺施設に対し、博物館が所蔵する関連資料の出張展示を積極的に実施することで、より多くの市民に館蔵資料に触れていただく機会を増加させるよう努めます。それらを併せた館外活動参加者についても目標を設定します。

２　利用者数目標について

この第２次基本計画の推進による、利用者数の目標を次の表のとおりとします。

（人）

内　容	基本計画目標値 （令和６年度）	現状値 （令和６年度）	第２次基本計画目標値 （令和１１年度）
常設展	11,000	1,436	6,000
特別展・企画展	20,000	9,774	25,000
入館者小計	**31,000**	**11,210**	**31,000**
館内イベント参加者	―	610	1,000
館外イベント参加者	―	736	1,500
出張展示	4,000	792	1,500
利用者合計	**35,000**	**13,348**	**35,000**

基本計画策定時と比較して現在では企画展開催日数を増加させる方向にあり、常設展のみの日数を減少させていることや、今後、第２次基本計画による PR の強化や訪れやすい環境づくり、周辺施設との連携強化などによって、企画展・特別展に直接来館される人数をより増加させることを目指します。また、入館者数に加えて、館内イベント参加者・館外イベント参加者についても目標を設定します。出張展示については、和歌山城ホールや和歌山市民図書館など近隣施設とも連携することで、閲覧者数の増加を目指し、令和 11 年度目標値を「入館者数」小計で 31,000 人、「利用者数」合計 35,000 人とします。

３　進捗評価について

（１）目的

和歌山市立博物館は、これまで「和歌山市立博物館基本的運営方針」（平成 27 年 2 月策定）及び「和歌山市立博物館基本計画」（令和２年１１月策定）に基づき、資料収集・保管、展示等の諸活動を行ってきました。これらの計画は、博物館法第 8 条に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第 165 号）の告示を基に制定されたもので、令和６年度が終期となっています。

今後もよりよい博物館づくりを目指すために和歌山市立博物館基本計画を踏襲し、第２次基本計画を策定しますが、博物館活動の指針として、今後 5 年間（令和 7 年度～１１ 年度）について、多元的な「評価指標」を定め、計画の進捗状況を確かめるとともに、広く市民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていきます。

（２）評価指標

本計画において掲げた基本理念に基づいて活動を進めていくにあたっての評価指標として、これまでの計画の諸指標を基準としつつ、新たな指標を設定し、長期的な視点から達成状況を測れるようにします。

【評価項目と目標値】

評価項目	単位	現状値	目標値
		令和３年度から 令和６年度の平均値	令和 11 年度
館蔵資料のオンライン公開点数（累計） ※１	点	112	200
常設展展示替え回数	回	35	45
特別展満足度	%	93.6	95
館内イベント数	回	36.5	50
館外イベント数	回	10.5	20
教育プログラムを利用して来館する 市内小学校の割合　※２	%	67.9	80
マスメディア等への情報提供件数	件	278	300
SNS 等による情報発信回数	件	390	450
博物館認知度　※３	%	87.3	90

※１館蔵資料のオンライン公開件数の現状値は、令和６年度末時点の累計。

※２教育プログラムを利用する市内小学校の割合は、令和３年度がコロナによるキャンセル件数が多かったため、令和４年度から６年度の平均をとっている。

※３博物館認知度は令和６年度に実施したインターネットモニターアンケートの結果による。